


令和８年１０月29日（木）
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
５年 学年便り １１月号

## ～はばたき９７名　次なる挑戦に向けて～

朝夕の空気がひんやりと感じられるようになり、校庭の木々や地面に広がる落ち葉からも、季節が秋から冬へと向かっていることを実感します。日々の生活の中で、子どもの姿にも少しずつ変化が見られ、学級で過ごす時間や仲間との何気ないやり取りの中にも、一人ひとりの成長が感じられます。

先日、各学級で取り組んできたつどいの発表が終わりました。つどいに向けて、どの学級の子どもも、４月からこれまで学級で大切にしてきたことや追究してきたことを振り返り、何を伝えたいのか、どのようにすれば自分たちの思いや考えが全校に伝わるのかを仲間とともに考えてきました。話し合いの中で意見が分かれたり、思うように進まなかったりすることもあったはずです。それでも、互いの考えに耳を傾け、自分たちの学級らしい発表を創り上げようとする姿がありました。

つどいは、伝えたい思いや追究してきたことを全校に向けて発表する場であると同時に、一人ひとりが自分自身や学級を見つめ直す機会にもなったようです。これまで自分たちは何を大切にしてきたのか、仲間とどのように関わってきたのか等、発表に向けて考えを深めていく中で、自分たちの学級のよさに改めて気付いた子もいれば、仲間の考えにふれ、自分の見方が広がった子もいるのではないでしょうか。発表という一つの形にたどり着くまでの過程には、子ども一人ひとりの思いや、学級としての歩みがぎっしりと詰まっていたように思います。

つどいを終えた今、子どもには、発表を通して得た気付きや思いをこれからの学校生活につなげていってほしいと願っています。つどいが終わったからといって、そこで学んだことまで終わるわけではありません。仲間と協力して一つのものを創り上げた経験、自分の考えを伝えようとした経験、学級のよさや課題に目を向けた経験。その一つひとつが、これからの自分や学級を創っていくための大切な土台となることを信じています。

そして、後期が始まり、子どもたちの目は少しずつ今の学級の先へ、そして次の学年へと向かい始めています。これまでの自分たちを振り返ることは、これからの自分たちを考えることにつながります。今の学級でどんな時間を過ごしたいのか、仲間とどんな関係を築いていきたいのか、次の学年にどんな自分で進んでいきたいのか、つどいを一つの節目として、それぞれが自分なりの思いをもち、これからの生活をよりよいものにしていってほしいと思います。

また、はばたきの５年生にとっても大きな行事である「六年生を送る会」に向けて歩みを始める時期となりました。先日、第１回目の学年集会が行われました。会の中では、話し合いがなかなかスムーズに進まない場面がありました。そんなとき、「今年の六送会は、はばたきが創るんだよ！」と、みんなで心を一つにして進んでいきたいという思いを、懸命に仲間に伝えていた子の姿がありました。きっと、その思いは、話し合いに参加していた一人ひとりの胸にも届いたことと思います。いつか、この第１回目の様子をいい思い出として振り返る日が来るはずです。

つどいを通して、自分や学級を見つめ直してきたはばたきの９７人。これからは、その経験を生かしながら、学年という一つの集団で大きな行事を創り上げていくことになります。一人ひとりが自分の思いをもちながらも、仲間の思いに耳を傾け、互いの考えをつなぎ合わせていく過程を大切にしながら、一つの目標に向かって進んでいってほしいと思います。

保護者の皆様におかれましても、今後とも教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。